

(別記)

令和5年度白河市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は、阿武隈川などを源流とする清らかな水や、肥沃な土地に恵まれた米づくりに適した地域として知られ、耕地面積の約8割が水田となっており、地域全体の約9割が出荷・販売を目的とした農家である。

また、主要品種であるコシヒカリの作付面積が約7割を占め、主食用米の生産意識が高いため、主食用米以外の作物等への転換を敬遠する生産者も多い。

しかし、構造的な人口減少とコロナ禍により米の需要が急激に減少する中、業務用米比率の高い当地域では更なる需要減少が危惧される。そのため低コスト栽培による非主食用米及び戦略作物への転換や、収益性の高い転作作物への推進が重要課題となっている。

令和4年度は、昨年に引続き飼料用米を中心とした転換を推進し生産目安を達成した。こうした取組みの成果により、需給改善の兆しが認められ令和4年産の米価も回復基調で推移しているが、令和2年産の水準には至っていない。今後も需要は引続き減少していくことが予想されることから、今年度においても飼料用米を中心とした転換を推進していく必要がある。

さらに、農家の高齢化や担い手不足などの問題に伴い、遊休農地等の拡大が顕在化しているため、担い手の育成・確保や集落営農の推進などを行っていく。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

(1) 収益性の向上

園芸作物の長期的かつ安定的な出荷量を確保するため、アスパラガス・いちご・きゅうり・トマト・ブロッコリー・レタス・なす・えごまなどの作付面積を拡大していく。

(2) 生産コストの低減

作付が主食用米に偏重している現状は、米価下落の局面において影響を受けやすい状態にあると言える。そのため、加工用米及び飼料用米について、低コスト生産技術を導入することで収益力強化を図り、現状からの脱却を図っていく。

(3) 適地適作の推進

地域の特性を活かせる作物を選定し、団地化や機械・施設の導入、集出荷体制の整備を支援し、安定生産・規模拡大を推進する。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本市双石地域では、農業法人による水田を活用した大規模グリーンハウスによる高収益作物（トマト）の生産計画があり、令和6年度までに水田農業高収益化推進助成の高収益作物畑地化支援を活用し、水田の有効活用を実現していく。

令和4年度は約6haの畑地化支援を実施し、令和5年度においても引続き畑作物が定着しているほ場について、水田として維持するためブロックローテーション等に取り組むか、畑地化を進めるか生産現場の課題等の情報を精査し、農業者の意向を確認しながら畑地化支援の提案を行う。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

主食用米の需要が今後も減少傾向にあることや、作付け拡大は供給過剰や価格下落

を招く懸念があることを十分認識してもらう必要があるため、需要に応じた米生産を推進していく。

また、本市では、食味値の高い主食用米を「白河産コシヒカリ」としてパッケージ販売しているため、主食用米の高品質化と食味値向上を図りながら、販売に向けたPRを行い消費拡大について推進していく。

(2) 備蓄米

需要に応じた米生産を推進するため、早期に安定した収入が見込める備蓄米を推進する。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

需要に応じた米生産を推進するため、今後も需要が見込まれる飼料用米への生産拡大を図る。そのため、多収品種導入や直播栽培などによる、低コスト・省力化を推進し、主食用米との収益差縮小を図る。

イ 米粉用米

該当なし

ウ 新市場開拓用米

需要に応じた米生産を推進するため、新たな市場開拓を目指し、輸出用米への生産拡大を図る。

エ WCS用稲

需要に応じた米生産を推進するため、今後も需要が見込まれるWCS用稲への生産拡大を図る。そのため、多収品種導入や直播栽培などによる、低コスト・省力化を推進し、主食用米との収益差縮小を図る。

オ 加工用米

需要に応じた米生産を推進するとともに、実需者への安定供給を図るため、加工用米の生産拡大を図る。そのため、多収品種導入や直播栽培などによる、低コスト・省力化を推進し、主食用米との収益差縮小を図る。

(4) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆、飼料作物については、自給率向上と実需者への安定供給を図るため、生産拡大を図る。特に、大豆の団地化（概ね1ha以上）への取組を推進し、作業の効率化による労働時間の短縮を図り、コスト低減に繋げていく。

(5) そば、なたね

そばについては、江戸時代から続く奨励作物であることから、実需者への安定供給を図るために生産拡大を図る。また、団地化（概ね1ha以上）への取組を推進し、作業の効率化による労働時間の短縮を図り、コスト低減に繋げていく。

なたねについては該当なし。

(6) 地力増進作物

該当なし

(7) 高収益作物

園芸作物の長期的かつ安定的な出荷量確保のため、市の地域振興作物を中心とし「トマト・きゅうり・なす・ブロッコリー・いちご・アスパラガス・レタス・えごま・えごま（搾油用）」の生産を支援していく。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度作付面積等	当年度の作付予定面積等	令和5年度の作付目標面積等
主食用米	2743.00	2700.00	2700.00
備蓄米	51.00	148.00	148.00
飼料用米	615.00	500.00	500.00
米粉用米	0.00	0.00	0.00
新市場開拓用米	4.00	4.06	4.06
WCS用稲	22.00	25.00	25.00
加工用米	3.00	10.00	10.00
麦	3.00	0.50	0.50
大豆	40.00	39.00	39.00
飼料作物	7.00	13.00	13.00
・子実用とうもろこし	0.00	0.00	0.00
そば	6.00	5.00	5.00
なたね	0.00	0.00	0.00
地力増進作物	0.00	0.00	0.00
高収益作物	18.76	17.90	17.90
・野菜	18.06	16.40	16.40
トマト	7.30	4.70	4.70
きゅうり	2.08	1.90	1.90
なす	0.00	0.50	0.50
ブロッコリー	1.75	2.70	2.70
いちご	0.50	0.40	0.40
アスパラガス	0.22	0.50	0.50
レタス	6.21	5.70	5.70
えごま	0.00	0.00	0.00
その他の野菜	0.00	0.00	0.00
・花き・花木	0.00	0.00	0.00
・果樹	0.00	0.00	0.00
・その他の高収益作物	0.70	1.50	1.50
えごま（搾油用）	0.70	1.50	1.50
うち支援対象	0.70	1.50	1.50
その他	0.00	0.00	0.00
畑地化	5.80	0.40	0.40

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	飼料用米 （一般品種） （基幹作物）	飼料用米複数年 契約助成	飼料用米（一般品種） 取組面積 飼料用米（一般品種） 生産費	（令和4年度） 225ha （令和4年度） 11,177円/60kg	（令和5年度） 225ha （令和5年度） 11,141円/60kg
1	飼料用米 （多収品種） （基幹作物）	飼料用米複数年 契約助成	飼料用米（多収品種） 取組面積 飼料用米（多収品種） 生産費	（令和4年度） 200ha （令和4年度） 9,691円/60kg	（令和5年度） 200ha （令和5年度） 9,691円/60kg
2	大豆 （基幹作物）	大豆・そばの団 地化による低コ スト生産支援	大豆の団地化面積 10aあたり労働時間	（令和4年度） 30.0ha （令和4年度） 8.3h/10a	（令和5年度） 35ha （令和5年度） 8.0h/10a
2	そば （基幹作物）	大豆・そばの団 地化による低コ スト生産支援	そばの団地化面積 10aあたり労働時間	（令和4年度） 4.7ha （令和4年度） 4.2h/10a	（令和5年度） 4.8ha （令和5年度） 4.0h/10a
3	野菜（トマト・な す・きゅうり・ブロ ッコリー・いちご・ アスパラガス・レタ ス・えごま） その他の高収益作物 （えごま（搾油 用）） （基幹作物）	地域振興作物 助成	野菜の作付面積 その他の高収益作物の 作付面積	（令和4年度） 18.0ha 0.7ha 計 18.7ha	（令和5年度） 16.4ha 1.5ha 計 17.9ha